

ISO取得により
介護の質向上をめざす

医療法人松永会・社会福祉法人松美会（松永清美理事長）は長年の松永病院を中心として、同地区や彦島地区で医療・介護サービスを提供。医療面は松永理事長1人に負う面が大きい。ISO9001の取得により介護の質を向上させ、利用者の安心感につなげている。

不本意で始めた介護事業を
充実させたISO取得

「20年ほど前は病院にしたいという思いが強く、何度も県に申請したが、そのたびに却下され悔しい思いをした。その後、老人保健施設なら認めると言われて1993年に建てたのが老人保健施設アイユウ（97床）」。松永理事長は、介護への取り組みは、不本意の連続がきっかけだったと振り返る。

「病院の許可が下りなかったのは政治的な理由があるのではと諦められたものだが、今になって思うと、中途半端な規模の病院を持つより、介護も含めた今のほうが事業展開しやすいと感じることもある。医療を中心に各種事業の継続を第一に考えたい」と語る。



松永清美理事長

「マニュアルもなく、利用者へのスタッフの対応がバラ

老健アイユウ開設後、94年に社会福祉法人松美会を設立し、95年には入所施設がなかった彦島地区の北西部に特別養護老人ホームアイユウの苑（50床）を開設。2002年には100床に増床し、併せて各種在宅サービスもスタートさせ、高齢者介護に本格的に取り組み始めた。

松美会では、辻中浩司事務長を中心に、介護の質を向上させる取り組みを開始した。以前、化学メーカーの研究所に勤務していた辻中氏は、介護の現場を見て愕然とした。

表 医療法人松永会、
社会福祉法人松美会の法人概要

医療法人松永会	
●長寿地区	
松永病院（97床）	
老人保健施設アイユウ	
（97床＋ショートステイ20床）	
社会福祉法人松美会	
●長寿地区	
地域密着型特別養護老人ホーム	
アイユウの苑ゆめタウン	
（20床＋ショートステイ20床）	
●彦島地区	
特別養護老人ホームアイユウの苑	
（100床＋ショートステイ20床）	
アイユウの苑グループホーム（2ユニット）	
その他、各エリアで在宅サービス展開	

バラなのに見えた。介護の質を標準化するにはどうすればいいかを考えた結果がISO9001の取得だ。99年には、特別養護老人ホームとして全国初のISO認証を受け、その後、在宅サービスを含めたグループの施設でも認証を受け、質向上に向けた取り組みを継続している。

老健からの退所者
受け入れ先を充実

同会は、彦島北西部で入所、在宅サービスを手堅く広げていったが、松美会が2005年にケアハウス等で、06年にはサテライト型新型特養（20床）と在宅サービスで同エリアに進出していった。

当時について松永理事長は「自分のエリアに乗り込んでこられた感じだった。彦島の中西部は松永

会が診療所を中心とした在宅サービスを提供していたが、「そういうことなら」と刺激を受けて、当会も中西部でグループホームを開設。小規模な合いのようなが、結果として地域の高齢者サービスの充実につながったと評価している。利用者の医療面について、松美会は松永理事長に負うところが多い。松永病院から派遣する形で、アイユウの苑に常勤の医師を置き、杜撰で訪問看護を24時間体制で展開し、彦島地区の利用者の支援をしている。その他、老健併設のショートステイ（30床）、グループホームともに松永理事長が対応する。

今後とも医療に近い所での展開を考えると松永理事長は、08年に医院から10分ほどの商業施設に隣接する形で地域密着型特養アイユウの苑ゆめタウン（20床）を開設した。

松永理事長は「医療面のケアは自分で動かしかないう状況は続くが、老健からの退所者の受け入れ先を今後充実させていきたい。今できるのは小規模な複合型住宅介護と高専賃との併設くらいか。住まいに介護・医療をどうやって付加するかが今後の課題」と話す。